

雀宮地域の文化財



宇都宮市制百周年記念シンボルマーク
雀宮地域

16 雀宮地区 坂本陣芦谷家

坂本陣芦谷家は、歴代治左衛門を襲名し、名主で問屋・旅籠・農業を営んでいた。現在の建物は嘉永元（1848）年の再建で、明治14年には明治天皇が上段の間で御休息された。

17 雀宮地区 福寿地藏尊と比丘尼仏

福寿地藏尊は、宝暦10（1760）年に窮乏の苦境から逃れる切実な願いを込めて祀られ、比丘尼仏は享保年間（1725頃）この地で亡くなった尼僧の冥福を祈って建立した。

18 雀宮地区 日光街道旧道

日光街道は、慶長8（1603）年徳川家康が江戸幕府を開いた直後開設されたが、雀宮神社の西側には今もなお「旧街道」として、狭い道が残されている。

26 宮の内地区 十里木古墳の石室

十里木古墳は、古墳時代後期の6～7世紀に築造されたもので、全長40mの前方後円墳で、国道の開設により前方部が削られ、今は後方の石室が完全な姿で保存されている。

27 宮の内地区 三日月神社

宮の内3丁目にあった狐塚古墳の墳頂にあった稲荷神社を、14人の有志が昭和25年正月現在地に移し、更に浄財を集めて鹿沼市の三日月神社の祭神を分霊合祀し、宮の内の氏神として崇敬している。

38 下反町地区 白衣観音像

白衣観音像は、下反町公民館の中に安置されているが、これは大正年間初期に寄進されたもので、像高は2尺の鑄造であり、地元の厚い信仰を集めている。

39 下横田地区 河原孫八不動尊

河原孫八不動尊は、宇都宮市新地にあったもので、昭和31年にこの細工瀬の小川氏が私財を投じて移築したものであり、成田山新勝寺の不動尊の分身であるという。

50 茂原地区 愛宕塚古墳

愛宕塚古墳は、4世紀後半から5世紀中期に築造された前方後方墳であって、全長は47mである。後方部から鏡・管玉・朱が塗られた壺形土器等が出土した。

51 茂原地区 上神主・茂原官衙遺跡

上神主・茂原官衙遺跡は、奈良時代に建造された官衙跡で、東西250m、南北370mの広大な敷地に、正庁と倉庫群が整然と配置され、国史跡に指定された。写真は発掘当時の姿で、現状は埋め戻して草地となっている。

20 雀宮地区 観音堂

観音堂は、立派な白木のお堂の中には、素晴らしい5体の仏像が安置され、上段左に2体の如意輪観世音菩薩が、右には阿彌陀如来が祀られ、下段の左に地藏菩薩が、右には阿彌陀如来が祀られている。

21 雀宮地区 本陣小倉家跡

本陣・小倉家の先祖は、阿波守守信と称し、天正年間（1573頃）宇都宮家に仕え、真岡城主にもなったが、宇都宮家の没落により雀宮に土着し、代々名主・本陣を勤めた。この表門は埼玉県和光市に移築した。

32 東谷地区 笹塚古墳

笹塚古墳は、5世紀頃のこの地を統治した豪族の墓と伝えられ、全長100m余の巨大な前方後円墳で、墳頂に薬師堂がある。県指定史跡。

33 東谷地区 双子塚古墳

双子塚古墳は前方後円墳で、明治24（1891）年旧東小学校建設の際、前方部を削取したため、今は後円部のみが残っている。墳頂には三日月神と千勝神がある。

44 御田長島地区 鈴木源之丞供養塔

鈴木源之丞供養塔は、明和元（1764）年に起きた粉田騒動の犠牲者源之丞の三回忌に、村人達が偉人の冥福を祈って建立した六角の供養塔で、顕彰歌碑があり、近くに喜国神社もある。

45 御田長島地区 観音堂

観音堂は、御田長島の公民館敷地内にあり、堂内には素朴な1尺5寸の十一面観世音菩薩が安置されている。縁起は不明であるが茂原の聖観世音菩薩と姉妹関係にあるという。

56 針谷地区 針谷新田二号墳

針谷新田二号墳は、新田小学校の新設の際、敷地内にあった3基の円墳のうち1基を保存したもので、直径は約10mである。他の2基の出土品は学校に展示されている。

57 若松原地区 地神・開拓記念碑

地神は、西原開拓団の信仰の対象である農業の神であり、かつ、団結のシンボルであって、昭和16年開拓団時に北海道から移したものである。

22 雀宮地区 太子堂

太子堂は、正光寺の境内にあり、宝形造りの美しいお堂で、内陣には聖徳太子と伝教大師の幼像が祀られている。正面には地藏菩薩像があり、正徳5（1715）年の創建とある。

23 雀宮地区 あらだて地藏尊

あらだて地藏尊は、安政6（1859）年雀宮宿の有力者5人が寄進したもので、宿に他国から働きに来た下男・下女や旅人たちのお蔭で、今も大切に祭祀している。

34 東谷地区 松の塚古墳

松の塚古墳は、笹塚古墳の東の水田のなかにあり、二段式の円墳である。

35 東谷地区 中坪の野仏

中坪公民館の前には、二荒山の碑、馬力神・徴馬記念碑などがあり、50貫もある二荒山の碑を力杖に使い、大いに賑わったと言う。日光男体山信仰の名残である。

46 茂原地区 炭原 遠江守家次の墓

炭原 遠江守家次の墓は、茂原共同墓地の中にある。家次は丹州穴穂の領主であったが、故あって宇都宮家家臣となり、軍功をたてた報償として、茂原と南摩の地を賜り、本郷に館を構えた。

47 茂原地区 路傍の石仏

路傍の石仏群は、茂原公民館の北側にあり、地元の有志が守護している。十九夜塔・如意輪観世音菩薩・十九夜念仏塔・地藏尊がある。

58 兵庫塚地区 横田城址

横田城址は、四條天皇の嘉祿3（1237）年に宇都宮頼朝の次男越中守頼業は、横田姓を名乗り、兵庫塚に五角形の横田城を築き、12年間横田郷千町歩を領した。

59 兵庫塚地区 安産稲荷神社

安産稲荷神社は、第70代額冷天皇（1050頃）の御代に創建されたという。祭神は宇迦之魂命で、宇都宮家との関係も深く、古くから安産祈願の霊驗あらたかであるといい、今も多くの参詣者を集めている。

24 雀宮地区 牛塚古墳跡

牛塚古墳跡は、明治10（1877）年東北本線の開設に伴い発掘したが、学術的に貴重な鏡などが出土して、大きな話題となった。大人塚と呼ばれたこの古墳跡は、現在共同墓地である。

25 雀宮地区 板碑と男性埴輪

雀宮中央小学校には、正和4（1315）年制作の「板碑」と綾女塚から出土したという「男性埴輪」が保存されている。

36 東谷地区 東山道跡

東山道は、8世紀に奈良の都から陸奥の国まで開設された軍用道路で、平成9年の発掘により所在が確認され、大きな反響を呼んだ。道幅は14mの本格的な道路であった。

37 下反町地区 十九夜塔

十九夜塔は、女性だけが参加する月待ち信仰の女人講で、今も伝統が守られている。この塔は、明治13（1880）年に地元の有志によって建立された。

48 茂原地区 権現山古墳

権現山古墳は、5世紀後半に築造された前方後方墳で、全長は約60m、墳頂には雷電神社がある。

49 茂原地区 大日塚古墳

大日塚古墳は、全長35mの前方後方墳で、墳頂には大日如来を祀った小祠があり、発掘により鉄銅製の鎌など多数の副葬品が出土した。

60 西川田地区 塚山古墳群

塚山古墳群は、3基の古墳からなり、6～7世紀に築造された前方後円墳で、主墳は全長100mに達し、美しい花木が植えられている。（県指定史跡）

塚山古墳群から出土した萬の綴刺埴輪「左」と、須臾器「右」